

# 共通学力試験

国語

時間 60分

## 学習のポイント

現代文は主として評論文から出題し、知識と読解力を試します。評論文とは、あるテーマに対して作者が自分の見方・考え方を主張するもので、読者はそのテーマと主張を、本文の記述に沿って客観的に理解することが鉄則です。そのためには漢字の読み、熟語、慣用句などの意味を知っている必要があります。日頃から国語辞典を引くことを習慣づけるとよいでしょう。最近は特に外来語の使用が増えているので注意が必要です。読解の方法として、本文の重要な箇所に線を引く習慣を身につけるとよいでしょう。そのためにも、学校での予習・復習を含む毎回の授業を大切にしてください。

問題Ⅰ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

政治という活動はある集団（典型的には国家）の目的なり利益なりに向けて自己決定し、それを実行していくことをめぐる諸活動である。政治はあくまで集団全体のあり方に関わる決定とその実行をめぐる活動であり、政治的統合はこうした活動の方向づけを担うものである。政治的統合が如何なるものであるかを形式・内容に即して自覚的に追求したプラトンの規定によれば、ポリテイケー（政治術）とは「ポリス全体に配慮」する包括的知識を意味する（『ポリティコス』）。そこでは物的資源や人的資源を駆使し、それらに方向づけを与えることに特徴が求められた。つまり、それは何か一定の行動を自ら行うことを予め念頭におくものではなく、あくまでも諸々の物的資源や人的資源を指導し、導く「王者の技術」としてイメージされていた。ここにはプラトン自身の政治術の内実についての独自の見解が流れ込んでいないわけではないが、政治的統合の端的な側面を示したものであることは疑問の余地がない。どんな政治家でも切羽詰まると最後には、「国家、国民のため」という殺し文句を口にするのは今も昔も変わりはない。

ア 政治的統合という言葉には、その具体的な内容をめぐってさまざまな見解があること、主体間で意見の対立があることが予め想定されている。実際、そうした見解の相違がなく、あるいはそれを問題として考える必要がないのであれば、統合といった言葉を事新しく使う必要はないであろう。注目すべきは、政治をめぐる古来の議論においては、こうした統合問題そのものを如何にして発生させないようにするか、逆に言えば、見解の相違が生じないようにすることに非常に大きなエネルギーが払われてきたことである。そして、そうした状態こそ理想の政治であると考えられてきた系譜がある。これは政治的統合という概念の意味を裏から理解するためにも、予め検討しておく必要がある。

例えば、東アジアにおいては、「無為にして治まる者は其れ舜なるか。夫れ何をか為さんや。己を恭しくして正しく南面するのみ（何もしないでいてうまく治められた人はまあ舜だろうね。一体何をされようか。おん身をつつしまれてま南に向いておられただけ）」（『論語』衛霊公篇）というのは古来からの一つの理想であり、「無為にして治まる」ことは統合が自ずから成立している事態である。しかし、『論語』にしてもこうした状態を実現するためには多くの努力と苦労があったことを伝えており、自ずから実現したように見える状態も働きかけや作為なしに実現するものとは考えられていない。その限りにおいてこうした「太平の世」を実現するためには教化の担い手が必要であり、その担い手の教育こそ儒教の任務であった。

古代ギリシアにおける政治的自由の開花と意見の対立、それに伴うダイナミックな政治史は広く知られている。それは政治的統合の担い手を変えたのみならず、その手続きや政治的統合の基本理念をめぐる多くの対立を次々と生み出した。プラトンの「哲人王」という構想は、そうした統合問題の政治化が果てしなく進行しつつある真つ只中において、一つの真理とそれを根拠にした包括的知識としての政治術（ポリテイケー）によって統合問題に決着をつけることを明らかに意図したものであった。真理と権力との一体化は当然のことながら、それに挑戦する知的・道徳的権威の徹底した排除を内包せざるを得ない。一言で言えば、人間は新しいポリスにふさわしいように「浄化」されなければなら

らず、そこからホメロスに代表される伝統的な知的権威が排撃されるのみならず、一〇歳以上の者は「浄化」のための再教育に耐えられないことを根拠にポリスから放逐されなければならないといった議論が出てくる。これをプラトンは「画布の汚れを拭い去る」という言葉で表現している。「浄化」と教育の徹底によって政治的統合はいわば問題としての性格を失うことになる。

この「哲人王」構想は多くの政治論において遠い理想として、イ、現実離れたユートピアとして受け止められるに止まったが、しかし、このa)ハイゴには真理と権力との一体化という重大なモデルが潜んでいる。実際、イデオロギー政治の時代にあつては、1)このモデルは圧倒的な存在感を持った。特に、マルクス主義の歴史を顧みれば、それは歴史的な現実の問題でもあり得た。レーニン、スターリン、毛沢東といった統治者は同時に哲学者とされ、真理をめぐる争いが権力をめぐる争いと常に連動する可能性を内包していた。ここでは真理をめぐる対立は政治的統合の担い手の間の対立につながり、時には「X 肅清」につながった。つまり、このモデルにおいては真理は一つであり、政治的統合における対立そのものがあつてはならない事態であり、従つてそれはY 然るべき形で理論的に「解決」されなければならないからである。

意見の対立を真理モデルによつて「克服」するのと違つた、もう一つの、最も広く見られた手法は、権力の威力によつて異論反論の余地を押し込め込むという方式であつた(ちなみに、二〇世紀において前者は全体主義体制、後者は権威主義体制というようにしばしば使い分けられた)。人間の内面にまで立ち入つて統合をb)モサクするのではなく、外面的な規制や「恐怖」によつて統合を現実のものにすることである。この場合には「恐怖」を与える統合の担い手の存在そのものが極めて重要であり、真理による権力の支えは期待できない。ウ、その担い手の運命によつては政治的安定が一気に崩壊する可能性がある。極端に言えば、一人の人間だけが自由で、他の人間はその従者や奴隷であるという構造を持ち、この一人の人間がいなくなれば統合を支える基盤はなくなり、急速に無秩序に転落する可能性を秘めている。マキアヴェツリはかつてフランスとトルコを比較して、前者は征服するのは容易であるが、それを維持するのは難しい、後者は征服するのは難しいが、それを維持するのは容易であると論じたが、それは後者には抵抗の核になる政治的統合がないタイプだからであつた。

ここで紹介したような政治的統合を道徳・倫理や真理によつて置き換えるモデルや、絶対的な権力行使によつて置き換えるモデルは、皮肉にも異論や反論、多様な意見の横行が現実には如何に通例であるか、一般的であるかを逆に物語っているといえよう。プラトンは『ノモイ』において「万物の尺度は人間である」という見解に対して、「万物の尺度は神である」と反論している。しかし、この尺度としての神にしても、人間による解釈と理解なしには人間にとつては意味を持たない。神は人間による人間の支配の道具であると言わないとしても(当時、そうした議論があつたことは残された断片からも知られている)、2)人間の介在なしには神は政治的統合の支えにはならないのである(そして、今度はこの解釈をめぐつて人間たちの間で異論反論が沸騰したことは周知の通りである)。

全てを見通すことができる存在(神)にとつては、具体的な歴史・社会状況の中であくせくと「選択」にこだわつて生きる人間の直面する課題——政治的統合はその一つである——は意味を持たないであろう。しかし、個としての存在こそ人間のc)ゲンテンであり、与えられた条件の下でその運命を

(d) カンジユするだけでなく、よりよい可能性を求めて「選択」し、それなりに責任を果たしていくという人間の姿は、自由主義といったレベル以前のより根源的な人間の条件を示唆している。「未確定動物」「新しいことを始める動物」など、多様な形で表現される人間のこの存在論的次元は、多様な「実現できること」をめぐる議論の発生を社会的にも促すことになる。個体の持つ出発点や磁場の違い、状況認識の違い、「実現すべきもの」についての感性の違い、こうした要素は一つに収斂する保証を欠いた意見の塊を生み出すことになる。

かくしてまさに政治的統合は意見の相違を前提にして成り立つ概念であるという指摘が如何に自然であるかが理解できよう。従って問題は、先に挙げた試みのようにこうした意見の相違という人間の・社会的現実をなくすことではなく、それを如何に取り扱うか、そのためにどのような工夫をすることに移ってくる。他方から言えば、<sup>(2)</sup> 雑然とさまざまな意見が流通するだけでは、政治的統合に<sup>(e)</sup> エンな無秩序に陥りかねず、それを防止することも念頭に上らざるを得ない。<sup>(3)</sup> 政治的統合はいわば対立なき統一、統一なき対立、この二つの狭間に位置していることになる。

(佐々木毅『政治の精神』による)

(注1) プラトン……古代ギリシアの哲学者(紀元前四二七〜紀元前三四七)。

(注2) ポリス……古代ギリシア人の都市国家。

(注3) 『論語』衛霊公篇……『論語』は儒教の「四書」の一つ。孔子とその弟子の言行を、弟子たちが記録・編集したもの。「衛霊公篇」はその一節。引用文中の「舜」は、  
中国の伝説上の帝王。

(注4) ホメロス……紀元前八世紀頃の古代ギリシアの叙事詩人。

(注5) マキアヴェッリ……イタリアの政治家・政治学者・歴史家(一四六九〜一五二七)。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 、(b) 、(c) 、(d) 、(e) 。

(a) ハイゴ

- ① 講義をハイチヨウする。
- ② 土地がコウハイする。
- ③ 会社へのハイシン行為。
- ④ ショウハイは時の運。
- ⑤ ハイカツ量を計る。

(b) モサク

- ① 作文をテンサクしてもらつ。
- ② サクリヤクを巡らせる。
- ③ サクバンの月は明るかった。
- ④ 機械でサクニユウする。
- ⑤ 本のサクインで調べる。

(c) ゲンテン

- ① ゲンスン大の模型。
- ② ヘンゲン自在に扱つ。
- ③ カンゲン楽団を結成する。
- ④ 食欲がゲンタイする。
- ⑤ ゲンカンを改装する。

(d) カンジュ

- ① カンセイの法則。
- ② カンパイの音頭。
- ③ カンベンな方法。
- ④ カンビな音楽。
- ⑤ あきらめがカンヨウ。

(e) ムエン

- ① エンギのよい出来事。
- ② 本の返却をエンタイする。
- ③ 高速でエンザン処理する。
- ④ サイエんとほまれ高い。
- ⑤ 火山がフンエンを上げる。

問2 空欄「ア、イ、ウ」を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア〔6〕、イ〔7〕、ウ〔8〕。

ア〔6〕 ① ところで ② すると ③ よって ④ なぜなら ⑤ そこで

イ〔7〕 ① ところが ② もっとも ③ すると ④ あたかも ⑤ あるいは

ウ〔8〕 ① だが ② ただし ③ 従って ④ また ⑤ もっとも

問3 傍線部X「粛清」、Y「然るべき」、Z「雑然」の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、X〔9〕、Y〔10〕、Z〔11〕。

X 粛清 〔9〕

- ① 条件次第で和解すること
- ② 争いに終止符をうつこと
- ③ 対立した状態を続けること
- ④ 反対派を追放すること
- ⑤ 賛成と反対を明確にすること

Y 然るべき 〔10〕

- ① ふさわしい
- ② 片寄った
- ③ しかたのない
- ④ 完璧な
- ⑤ 手のこんだ

Z 雑然 〔11〕

- ① はっきりせずあいまいな様子
- ② ごたごたと入り混じっている様子
- ③ 他からいろいろ口を出す様子
- ④ 頑固で他人の意見を聞かない様子
- ⑤ じっとして少しも動かない様子

問4 傍線部(1)「このモデルは圧倒的な存在感を持った」とあるが、これはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 権力者が真理に基づく支配を行っているため、見解の相違や対立が自然となくなっていくから。
- ② 権力者が根拠を示さなのまますべてを決めていくにもかかわらず、真理に近づいていくから。
- ③ 真理が一つであるため、それに対抗して異論反論を唱える権力者たちの結末も強固になるから。
- ④ 真理に到達した者が権力も手にするため、真理に異論反論を唱える者たちは排除されるから。
- ⑤ 真理をめぐる対立は話し合いによって回避されることになり、権力を一本化しやすくなるから。

問5 傍線部(2)「人間の介在なしには神は政治的統合の支えにはならない」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 。

- ① 神の判断が正しいか否かに対しては、人々は具体的な異論反論を出すことはできないということ。
- ② 政治的に統合した支配者は、全てを見通す存在(神)の預言に従わなければならないということ。
- ③ 政治的統合を進めるためには、神を後ろ盾にして人間が神の考えを言葉にするしかないということ。
- ④ 人間には神の考えを理解できるほどの能力はないので、理解したふりをせざるを得ないということ。
- ⑤ 神が全ての判断を下したとしても、人間がそれを実現しなければ政治的統合はできないということ。

問6 傍線部③「政治的統合はいわば対立なき統一、統一なき対立、この二つの狭間に位置している」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 14。

- ① 個々の人間の意見の相違を放置しておくことは、社会に無秩序状態を招くものである。したがって、この意見の相違や対立を解消しないまま政治的統合のための方向性を決めてはいけないうこと。
- ② 互いに異なる意見を放置すれば混乱が生じるが、完全に相違をなくすることもできない。そこで、政治的統合は、秩序を保ちながらも異なる意見を内包する中で実現を目指すものだということ。
- ③ 人間は互いに異なった意見を持つ存在であり、これを統合しようとする政治的な動きやそれを行う個人や団体と必ず対立する。ゆえに、政治的統合は、権力者を生み出す制度やルールと相容れないということ。
- ④ 人間は互いに意見を異にする存在ではあるが、取り扱いや工夫によって合意に至ることもできる。したがって、激しい対立があったとしても、政治的統合という目的にはいずれ到達できるものであるということ。
- ⑤ 意見の相違を乗り越えた先にあるものが真理であるが、真理だけでは対立が解消できないことは歴史的に証明されている。つまり、政治的統合は、真理と恐怖政治が融合した時に実現できるものだということ。

問7 本文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 15。

- ① 古今東西の政治家が口にする「国家、国民のため」という文句の効用は、プラトンによっても証明されている。
- ② 東アジアにおいて、働きかけや作為なく統合を実現する担い手を教育することが儒教の任務とされていた。
- ③ レーニンやスターリンは、権力の威力によって反論の余地を押さえ込むという方法によって統治していた。
- ④ 一人の人間によって統合されている国は、抵抗の核となる人間が少数であるため征服後維持することは容易である。
- ⑤ 神は絶対的な権力を持ち全てを見通すことができるため、人間社会の歴史や政治に興味を持つことはない。



問題Ⅱ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

東日本大震災が起きたとき、(a) ジャッカンはなりとも哲学史の知識をもっている者はたいてい、カントの有名な議論、「美」を超える「崇高」についてのカントの有名な議論を思い起こしたに違いない。カントは、「崇高」を、人間の道徳法則の峻厳さの中に見ているのだが、(1) その崇高の次元を照らし出すために、暴力的な自然災害を準拠にしているのだ。

カントによれば、最も破壊的な自然災害、たとえば火山の(b) フンカのような災害も、道徳法則の厳しさに比べれば、無に等しいものである。この議論において、自然災害は、それ自体としては、十分に激しく、破壊的であることがまずは前提である。その破壊的な自然災害すらも A するものとして、人間の超越性の根拠となるような道徳法則の厳格さが提示されている。カントがこのように論ずるとき、彼の念頭には、ある震災が——一七五五年のリスボン大震災が——あったことは間違いない。当時のリスボンの人口の四分の一から三分の一が失われたと言われているこの震災に、カントは非常な衝撃を受け、『視霊者の夢』や「地震論」などを書いている。カントは、この衝撃をもたらす自然の暴力の否定を介して、人間に固有の次元を規定したのである。

東日本大震災に関して、であれば、カントのこの議論は、そのまま当てはまっただろう。確かに、東日本大震災は B の大惨事であり、一万五〇〇人を超えるかけがえない命が失われ、これに行方不明者を加えた数は二万人に迫っている。しかし、同時に、震災は、その悲劇に拮抗しうる人間の偉大さをも開示した。震災の被災者を救出するために形成された「友愛のコミュニティ」は、自然災害を超える人間の偉大さの表現ではないか。

しばしば、法や権力が機能しない状態では、人間の集合には、 相克的な状況が出現すると言われている。ホッブズの言うところの自然状態である。 A、レベッカ・ソルニツは、二〇世紀のいくつもの大規模な自然災害の後に——つまり法や権力が実際に機能停止した状況で——何が起きたのかを(c) ショウサイに調査することによって、こうした通念がまったく成り立たないこと、むしろ通念の否定にこそ真実があることを実証してみせた。大災害の後の無法地帯に出現するのは、利己的な個人間の葛藤——殺人や強盗をも(d) ジさないような葛藤——ではなく、 イ、普段にはとうてい見ることができない驚異的な利他性に支配された相互扶助的な共同性である。私は、そのようにして形成された共同性を「友愛のコミュニティ」と呼んでみたい。

東日本大震災に対しても、友愛のコミュニティが出現した。まず、直接の被災者たち自身が、互いに命がけで助け合った。さらに、自衛隊、消防、警察、役場の職員等の、救済に対して職業的な使命を有する者たちも、実に献身的に活動した。現在でもその献身的な活動は終わってはいない。これに、国内外からの連帯の呼びかけと行動が加わる。そうした行動の最も顕著な形態は、言うまでもなく、国内外から救援のために参集した、多数のボランティアの活動である。もう少し消極的なものとしては、救援物資や寄付金の贈与による、間接的な救済の活動もある。これらすべてが、大震災の被災者の救出を目的として連帯した、大規模な友愛のコミュニティであったと言ってよいだろう。

この友愛のコミュニティが、どのくらいの深さや強度をもつものなのか？ それは、どこまでの拡が

りがあるのか——完全にXグローバルなものにまで拡張しうるものなのか？ それは、いつまで持続するものなのか——災害直後の一時的なものなのか、その後の社会の変化をもたらすほどの持続性があるのか？ こうした問いはいずれも興味深い。しかし、これらの点については、ここでは深く探究しない。ただ、東日本大震災において出現した友愛のコミュニティが、グローバルで普遍的な連帯の可能性について、あるいは全体社会の永続的な改変をもたらしうる可能性について、われわれに希望をもたらしたことは確かである。こうして、われわれは、東日本大震災を媒介にして、自然災害の暴力性を超える、人間の崇高な偉大さを実感することができるのだ。

ただし、ナオミ・クライン<sup>(注5)</sup>が言う「シヨック・ドクトリン」のことを考えると、こうした認定には、重要な留保がつく。シヨック・ドクトリンというのは、たとえば次のような現象である。二〇〇四年二月に、スマトラ沖で大地震が発生したとき、スリランカは大津波に襲われ、およそ三万五〇〇〇人が亡くなり、一〇〇万人近くが避難を余儀なくされた。犠牲者の八割が、<sup>(e)</sup>レイサイ漁民であった。このとき、大規模な避難で沿岸部に空地<sup>(注6)</sup>が出現したのを奇貨とし、大資本——とりわけ外資——は、富裕層向けのリゾート地の開発を一挙に推し進めた。この地は、かねてから観光地に適していると目をつけられていたのだが、あまりにも多くの漁民が暮らし、土地の所有関係がCしており、政府も大資本も開発に着手できなかったのである。しかし、大津波をきっかけとして、「復興」という形式をとって、大資本は利益を追求することができた。こうしたやり方は、「惨事便乗型資本主義」と呼ばれることもある。

この現象のポイントは次の点にある。大惨事の直後には、それ以前からあつた権力関係が純化され、極端に強化される傾向がある。権力関係の下層にいるような「弱者」ほど、大きなダメージを受けているからである。ここに、より大きな権力を有する者——政治的・経済的な力をもつ階級や資本や政府等——は、かねてから有していた欲望、利己的<sup>(注7)</sup>と言えば利己的な野心を満たす絶好のチャンスを見出すことになる。これが、シヨック・ドクトリンである。おそらく、東日本大震災の後にもこうした現象は見られた——あるいはこれから見られる——であろう。

したがって、次のように整理することができる。災害の最中という究極の例外状況においては、一般の通念とは異なり、人間の日常的な利己性は停止し、思いもよらないような利他的なふるまいが見出される（友愛のコミュニティ）。だが、そうした究極の例外状況が終わったすぐ後、つまり大災害の直後には、逆に、日常の利己性は強化され、純粹状態で発揮される（シヨック・ドクトリン）。

シヨック・ドクトリンのことを考慮に入れれば、自然災害を超える人間の道徳的な偉大さを手放しで称賛するわけにはいかない。とはいえ、破局が、日常生活においてはとうてい見出しえなかった人間の可能性、つまり人間のD的な崇高性を現出させたことの意義は、なお大きいと言つべきではないだろうか。シヨック・ドクトリンは、友愛のコミュニティの価値を否定するものではない。

（大澤真幸『夢よりも深い覚醒へ——3・11後の哲学』による）

（注1）カント……ドイツの哲学者（一七二四〜一八〇四）。ドイツ観念論哲学の祖。

（注2）リスボン……ポルトガルの首都。

(注3) ホッブズ……イングランドの哲学者(一五八八〜一六七九)。主著『リヴァイアサン』のなかで、いまだ政治状態に至っていない人間のありかたを「自然状態」と想定し、その段階の人間たちは、各々、自己の生命の維持のために他者と競争的關係にあることを説き、「万人の万人に対する闘争」という文言を残した。

(注4) レベッカ・ソルニット……アメリカ合衆国出身のエッセイスト(一九六一〜)。

(注5) ナオミ・クライン……カナダ出身のジャーナリスト(一九七〇〜)。

(注6) 奇貨……利用すれば予想外の利益を獲得できそうな機会。

問1 傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、

(a) 、(b) 、(c) 、(d) 、(e) 。

(a) ジャッカン

- ① 忘年会のカンジをする。
- ② 大雨でカンスイする。
- ③ 退職をカンコクする。
- ④ カンヨウの精神が大切だ。
- ⑤ カンチョウの磯いそで小魚をとる。

(b) フンカ

- ① フンソウを解決する。
- ② 不満の声がフンシュツする。
- ③ 相手のフントウをたたえる。
- ④ 敵をフンサイする。
- ⑤ 不正行為にフンガイする。

(c) ショウサイ

- ① カンショウ的な気持ちになる。
- ② 作者がフショウの物語。
- ③ シショウから教わる。
- ④ 実権をショウチュウに収める。
- ⑤ 読書をスイショウする。

(d) ジさない

- ① 周囲のジモクを集める。
- ② キンジ値を求める。
- ③ ジセイの句を残す。
- ④ ジゼン活動を行う。
- ⑤ ジヨウのある食物。

(e) レイサイ

- ① レイラクしたかつての名門。
- ② 召集レイジョウが届く。
- ③ 特定の選手をレイグウする。
- ④ 部活の後輩をゲキレイする。
- ⑤ レイセツをわきまえた言動。

問2 空欄 A、         D を補うのに最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 21、B 22、C 23、D 24。

- ① 逡巡 しゆんじゆん
- ② 錯綜 さくそう
- ③ 凌駕 りやうが
- ④ 未曾有
- ⑤ 倫理

問3 空欄          I          に入る最も適当な表現を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 25。

- ① 各人が気の置けない敵同士としてあるような
- ② 各々が自らの巣穴に閉じこもってしまっつかのような
- ③ それぞれが他者の鏡としてあるような
- ④ 互いが互いに対して狼になるような
- ⑤ 人々という人々が皆水を得た魚であるかのような

問4 空欄          ア、         イ を補うのに最も適当な語句の組み合わせを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 26。

- ① ア もちろん      イ したがって
- ② ア しかし      イ むしろ
- ③ ア さらに      イ 確かに
- ④ ア ところで      イ いっそ
- ⑤ ア なるほど      イ さらに

問5 傍線部X「グローバル」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 27。

- X グローバル 27
- 
- ① 特定の地域や民族にのみ通用するさま
  - ② 地球全体規模で経営の戦略をたてるさま
  - ③ 世界的に通用する標準的なルールを定めるさま
  - ④ 世界的な規模にまで広がっているさま
  - ⑤ 地域的特色が無化され画一化されるさま

問6 傍線部(1)「その崇高の次元を照らし出すために、暴力的な自然災害を準拠にしているのだ」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 28。

- ① 破壊的な惨事が生じた際の人間の倫理的行動を参照することで、人間の固有の偉大さを証明しようとする。
- ② 大災害にも超然と臨む人間の姿に着目することで、近代人に特有の道德観念の峻厳さを証明しようとする。
- ③ 自然の暴力に拮抗する人々の姿を描写することで、自然から孤絶した人間のありようを証明しようとする。
- ④ 人間の持つ道德観念の尊さと対照することで、自然災害がもたらす恐怖を克服する可能性を証明しようとする。
- ⑤ 震災が生み出す悲惨さを照射することによって、逆説的にリスボンの人々の偉大さを証明しようとする。

問7 本文中の「友愛のコミュニケーション」および「ショック・ドクトリン」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 29。

- ① 前者は、大惨事の後に権力者が自らの欲望をむき出しにする「惨事便乗型資本主義」を意味するが、後者は、極限状況においても発揮されるお互いに対する利他的行為に基づいて構築されていく共同性を意味する。
- ② 前者は、人間において根源的に認められる、相互扶助的関係を基盤として築かれる共同性を意味するが、後者は、前者から生じる必然的な帰結として、権力者たちにおける利己的な野心が、純粹に発揮されてしまう状態を意味する。
- ③ 前者は、極限状況においても利他性に基づいて相互扶助的に形成される共同性を意味するが、後者は、大惨事をきっかけとする権力関係の強化を要因として生じる、権力者たちによる利己的な欲望充足の希求を意味する。
- ④ 前者は、災害時においても人間は利他性を発揮しようとするという通念を意味するが、後者は、たとえいったん前者が確立されようとも、そこにいる人々は不可避免的に利己性に支配されてしまふことになるという人間の本質を意味する。
- ⑤ 前者は、東日本大震災という極限状態において発揮された、日本人における共同性を意味するが、後者は、スマトラ沖地震において確認された、西欧個人主義的なイデオロギーに由来する人間の利己的な野望を意味する。

問8 本文における筆者の考えと合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 30。

- ① 災害時において発揮されると考えられている人間の利他的性質に基づく共同性に期待することとは、机上の空論である。
- ② 極限状況において人間の利己性があらわになることはありうるが、とはいえ人間の崇高性が否定されるわけではない。
- ③ 友愛のコミュニケーションが象徴する人間の道徳法則の超越性は、もはや揺らぐはずもない不動のものとして確立されている。
- ④ 友愛のコミュニケーションの内側においては、積極的な活動と消極的な活動とが混在するが、当然前者が評価されるべきである。
- ⑤ 献身的活動にも虚栄心の一端が認められる以上、人間における利他性と利己性とは、表裏一体の関係にあるといえる。

## 国語 S 解答一覧と配点案

大問	小問	解答 番号	正解	配点 案	解 説
㊦ 50点	問 1	1	③	2	背後 ①扨聴 ②荒廢 ③背信 ④勝敗 ⑤肺活(量)
		2	⑤	2	模索 ①添削 ②策略 ③昨晚 ④搾乳 ⑤索引
		3	①	2	原点 ①原寸 ②変幻(自在) ③管弦 ④減退 ⑤玄関
		4	④	2	甘受 ①慣性 ②乾杯 ③簡便 ④甘美 ⑤肝要
		5	①	2	無縁 ①縁起 ②延滞 ③演算 ④才媛 ⑤噴煙
	問 2	6	①	3	空欄直前では「政治的統合」のプラトンによる意味付けについて述べられているが、空欄の直後では「政治的統合」という言葉は実際はさまざまな見解があることが述べられており、プラトンによる規定から様々な見解があることへ話題が転換されている。よって、①「ところで」が適当。
		7	⑤	3	空欄直前に「遠い理想」とあり、直後に「現実離れしたユートピア」とあり、同様のものが並べられている。よって、同類の事項を列挙する⑤「あるいは」が適当。
		8	③	3	空欄直前で「統合の担い手の存在そのものが極めて重要」と述べられ、直後で「担い手の運命によっては政治的安定が一気に崩壊する可能性がある」と述べられている。よって、前の条件によって、順当に後の事柄が起こることを示す、③「従って」が適当。
	問 3	9	④	3	「肅清」とは「厳しく取り締まって、乱れや不正な者を除くこと。特に独裁政党などにおいて、反対派を追放すること」。よって④が適当。
		10	①	3	「然るべき」とは「適当な。ふさわしい。当然である。当たり前だ」。よって①が適当。
		11	②	3	「雑然」とは「いろいろなものが入り混じってまとまりのない様子」。よって②が適当。
	問 4	12	④	5	「このモデル」とは直前の「真理と権力との一体化という重大なモデル」のことを指している。「圧倒的な存在感を持った」理由は、傍線部を含む段落の二つ前の段落に「一つの真理とそれを根拠にした包括的知識としての政治術(ポリティケー)によって統合問題に決着をつける」とあり、また、傍線部を含む段落に「レーニン～といった統治者は同時に哲学者とされ、真理をめぐる争いが権力をめぐる争いと常に連動する可能性を内包していた」と述べられていることから④が適当。①は「自然となくなる」、②は「根拠を示さないまま」、③は「結束も強固になる」、⑤は「話し合いによって」がそれぞれ不適。



	問5	13	③	5	傍線部の前の「神にしても、人間による解釈と理解なしには人間にとっては意味を持たない。神は人間による人間の支配の道具であるとまで言わないとしても」とあることに着目する。よって、これらの表現を具体的に言い換えた③が適当。
	問6	14	②	6	「対立なき統一」とは、個々人の間に意見の相違が全くなく統一がなされている状態。「統一なき対立」とは、逆に、意見の相違が放置され無秩序な状態に陥っていること。このどちらもありえない状態なので、政治というもので、意見の相違をうまく取り扱い、工夫をして、統合をしなければならない、というのが問題文の主題である。この内容を説明しているのは②。①は「決めてはいけない」が、③は「これを統合しようとする…必ず対立する」が、④は「激しい対立があったとしても…いずれ到達できる」が不適。⑤は全体的に誤った内容。
	問7	15	④	6	①は「プラトンによっても証明されている」わけではないので不適。②は第3段落の「『太平の世』を実現するために…担い手が必要」とあるように、「働きかけや作為なく統合を実現する担い手」ではないので不適。③は第5、6段落にあるように、レーニン、スターリンは「真理と権力との一体化」による統治であるので不適。④は第7段落の内容と合致する。⑤は「神は絶対的な権力を持ち」が第9段落の内容に合致せず不適。
	問1	16	⑤	2	若干 ①幹事 ②冠水 ③勸告 ④寛容 ⑤干潮
		17	②	2	噴火 ①紛争 ②噴出 ③奮闘 ④粉碎 ⑤憤慨
		18	②	2	詳細 ①感傷 ②不詳 ③師匠 ④掌中 ⑤推奨
		19	③	2	辞さない ①耳目 ②近似 ③辞世 ④慈善 ⑤滋養
20		①	2	零細 ①零落 ②令状 ③冷遇 ④激励 ⑤礼節	
問2	21	④	3	④「凌駕」は、「他のものをはるかにしのぐこと」。空欄を含む段落の次の段落の最後、「自然災害を超える」という記述もヒントになる。	
	22	⑤	3	⑤「未曾有」は、「いまだかつてなかったこと」。空欄を含む一文内に記述されているあまりにも甚大な被害状況を参照。	
	23	②	3	②「錯綜」は、「複雑にからみあっていること」。空欄直前の、「あまりにも多くの漁民が暮らし」という記述に着目。	
	24	⑦	3	⑦「倫理」は、「人と人とのあるべきつながり方、すなわち道徳のこと」。空欄直前の「つまり」に着目し、空欄を含む部分が「人間の可能性」と等価の関係にあることに気づきたい。	
50点					

問3	25	④	4	空欄直前の「法や権力が機能しない状態」、および、直後の「相克的な状況」という記述が手がかりとなる。「相克」は、「対立しあう者同士が相手に勝とうとして争うこと」の意。このような攻撃性を表す比喻としては、④の「狼」が最も適当である。①については、「気の置けない」という部分が誤り。これは、遠慮がらず、うちとけられることを意味する慣用句である。
問4	26	②	3	Aについては、前の文の「相克的な状況が出現する」という「通念」を否定する内容が続くことから考える。よって「しかし」が適当。また、イに関しては、直前の「ではなく」および、空欄を含む一文末尾の「である」に着目する。＜Aではなく、むしろB＞という対比・選択の構造である。よって「むしろ」が適当。
問5	27	④	3	①は正反対の意味。②は「経営の戦略」、③は「ルールを定める」と内容を限定している。⑤は「グローバル化」をこのような意味で使うことはあるが、この文脈には合わない。④が適当。
問6	28	①	6	傍線部直後の段落の内容から①が適当。②は対象を「近代人」に限定してしまっている点が不適。カントは、人間に普遍的な性質として、「道徳法則の峻厳さ」を述べている。同様の観点から、対象を「リスボンの人々」に限定してしまっている⑤も不適。③は「自然から孤絶した」という否定的な意味づけに問題があり不適。④については、手段と目的が反転してしまっており不適。
問7	29	③	6	「友愛のコミュニオン」および「ショック・ドクトリン」を定義する箇所を整理できている③が適当。①については、前者の説明と後者の説明が入れ替わってしまっており不適。②は、「後者」を「前者から生じる必然的な帰結」と認識している点が不適。たしかに本文には、前者が終わったすぐ後に後者が発生する、と述べられているが、それは単なる時系列上の問題であって、因果関係を述べているわけではない。④は、前者を「通念」と定義している点が不適。むしろ利他性や共同性は、一般的な「通念」を否定するものとして説明されている。⑤は、対象を「日本人」に限定している点、および本文に記述のない「西欧個人主義」についての言及が不適。

	問 8	30	②	6	<p>設問に「筆者の考え」とある点に留意。単なる内容合致ではなく、本文全体から読み取れる筆者の主張を述べる選択肢が正解となる。筆者は、「友愛のコミューン」と「ショック・ドクトリン」との対比的分析を通じ、最終的に、「友愛のコミューン」を「手放しで称賛する」ことはできないが、しかしながら、その価値は否定されることはない、と述べている。この点を正確にまとめている②が適当。①は、「友愛のコミューン」の可能性を全否定してしまっており不適。③は逆に、「友愛のコミューン」を絶対化してしまっていて不適。④は、「積極的な活動」と「消極的な活動」との対比についてはたしかに本文に言及されているが、それらの優劣を価値付けする記述はないので不適。⑤は前半が本文には書かれていないし、かつ、本文において対照性においてとらえられている「利他性」と「利己性」を、相関的な「表裏一体の関係」においてとらえてしまっている点も不適。</p>
--	-----	----	---	---	---